

新規事業採択時評価結果（平成31年度新規事業化箇所）

担当課：道路局 国道・技術課
 担当課長名：東川 直正

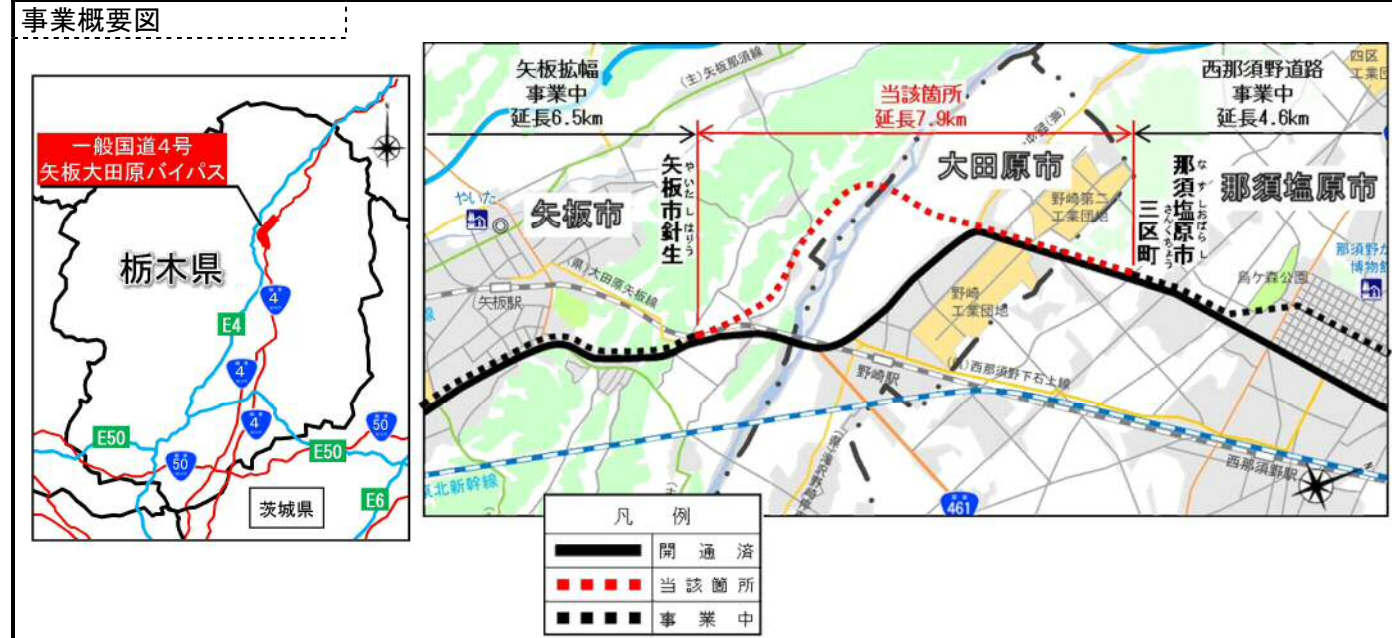
事業の概要

事業名	一般国道4号 矢板大田原バイパス	事業区分	一般国道	事業主体	国土交通省 関東地方整備局
起終点	自：栃木県矢板市針生 至：栃木県那須塩原市三区町	延長	7.9km		

事業概要
 一般国道4号矢板大田原バイパスは、交通混雑の緩和による物流生産性の向上、通過交通の転換による現道4号の交通安全確保及び沿道環境の改善等を目的とした、矢板市針生から那須塩原市三区町に至る延長7.9kmのバイパス及び現道拡幅事業である。

事業の目的、必要性
 当該区間の整備により交通混雑を緩和し、輸送の効率化やドライバーの労働環境改善など物流生産性向上に寄与するとともに、バイパス部へ通過交通を転換することで国道4号現道の交通死亡事故の低減及び沿道環境を改善する他、救急医療施設への速達性向上により救急医療活動を支援することを目的とする。

全体事業費：約400億円
 計画交通量：約28,500台/日～約38,700台/日



関係する地方公共団体等の意見
 【栃木県知事】
 ・予算化について同意する。
 ・国道4号は隣接する矢板拡幅、西那須野道路の整備を進めていただいているところであるが、当該区間の整備により、地域住民の利便性向上や経済産業活動の活性化などの整備効果が、県北地域はもとより県内全域に波及するものと大いに期待している。
 ・事業の実施にあたっては、コスト縮減を図りながら、早期完成に向けて特段のご配慮をお願いします。

学識経験者等の第三者委員会の意見
 ・新規事業化については妥当である。

事業採択の前提条件
 ・費用対便益：便益が費用を上回っている。
 ・手続きの完了：都市計画決定手続き完了（H30.11）

事業評価結果

費用対便益	B/C	2.0	総費用：323億円 （事業費：296億円 維持管理費：27億円）	総便益：642億円 （走行時間短縮便益：558億円 走行経費減少便益：71.6億円 交通事故減少便益：13億円）	基準年：平成30年
	感度分析の結果	交通量変動	B/C=1.9（交通量 -10%）	B/C=2.2（交通量 +10%）	
		事業費変動	B/C=1.8（事業費変動 +10%）	B/C=2.2（事業費変動 -10%）	
	事業期間変動	B/C=1.8（事業期間変動 +2年）	B/C=2.1（事業期間変動 -2年）		
事業の影響	自動車や歩行者への影響	評価項目	評価	根拠	
		渋滞対策	◎	バイパス整備により交通混雑が緩和し、トラック輸送の効率化やトラック乗務員の労働環境改善など、物流生産性が向上。 〔工業団地（大田原市）⇒矢板ICの所要時間〕 【現況】22分 → 【整備後】18分（約2割短縮）	
		事故対策	◎	・バイパス整備で大型車を含む通過交通が転換され、現道の安全性が向上。 〔死亡事故率〕 【現況】1.2件/億台*。 → 【整備後】0.9件/億台*。（約3割低下）	
	社会全体への影響	歩行空間	○	生活道路や通学路としても利用されている現道の通過交通がバイパスに転換し、沿線住民や通学児童の安全・安心が確保される。	
		住民生活	◎	・バイパス整備により交通混雑が緩和し、第3次救急医療施設への速達性が向上。30分以内に到達する圏域が拡大し、救急医療活動を支援。 〔第3次救急医療施設への30分到達人口〕 【現況】21.1万人 → 【整備後】25.3万人（約4.2万人増加）	
		地域経済	○	事業区間には日本トップシェアの企業が立地する工業団地を有しており、物流の効率化が期待される。	
		災害	○	平成10年8月の大雨災害では、野崎橋が5日間通行止めとなり、一般国道4号の交通機能が寸断し、大幅な迂回が発生したが、バイパス整備により代替路が確保される。	
	環境	-	注目すべき影響はない		
	地域社会	-	注目すべき影響はない		
事業実施環境	○	・都市計画決定手続き完了（H30.11.20） ・栃木県知事、矢板市長、大田原市長、国道4号栃木県北部地域整備促進期成同盟会等により矢板大田原バイパスの早期事業化を要望。			

採択の理由

費用便益比が2.0と便益が費用を上回っているとともに、都市計画決定手続きが完了し、事業採択の前提条件が確認できる。
 また、当該区間の渋滞緩和や事故削減ならびに地域経済等への効果が期待でき、事業の必要性・効果は高いと判断できる。
 以上より、本事業の新規事業化については妥当である。

※総費用、総便益とその内訳は、各年次の価額を割引率を用いて基準年の価値に換算し累計したもの。